

教育実習における教育実習生の学校保健・学校安全への意識向上のための教育プログラムの開発

荒川雅子（東京学芸大学 養護教育講座）
田岡朋子（東京学芸大学附属竹早小学校養護教諭）
中村陽子（東京学芸大学附属小金井幼稚舎養護教諭）（令和2年度）
竹鼻ゆかり（東京学芸大学 養護教育講座）
佐藤牧子（東京学芸大学附属小金井小学校養護教諭）
塚越潤（東京学芸大学附属竹早中学校養護教諭）
倉澤順子（東京学芸大学附属大泉小学校養護教諭）
桑野桜（東京学芸大学附属世田谷小学校養護教諭）
遠藤真紀子（東京学芸大学附属世田谷中学校養護教諭）
新川夕貴（東京学芸大学附属中等教育学校養護教諭）
高橋衣純（東京学芸大学附属中等教育学校養護教諭）（令和2年度）
佐藤晴香（東京学芸大学附属中等教育学校養護教諭）（令和3年度）
大関智子（東京学芸大学附属特別支援学校養護教諭）
中谷千恵子（東京学芸大学附属小金井中学校養護教諭）
武井佑真（東京学芸大学附属高等学校養護教諭）

代表者連絡先：arakawam@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 教育実習、学校保健・学校安全、教育プログラム

1 はじめに

学校現場における子供の健康課題の複雑化にくわえ、近年学校やその周辺における事件や自然災害等によって、子供にとっての安心・安全な環境への関心が高まっている。そのため、平成31年4月1日から施行された教育職員免許法及び同法施行規則改正に伴う教職課程の改定において、「学校安全への対応」が新たに加わった。このように学校保健・学校安全の重要性が高まる中、本学では、学校保健・学校安全にかかわる授業は現時点では選択授業となっており、全員が受講する機会は、卒業前の教職実践演習で、1時間あるだけとなっている。そのため、学校保健・学校安全について十分に学ぶ機会が保証されているとは言えない状況である。

そうした中、教育実習という機会を用いて、教員を目指す学生に学校保健・学校安全について理解を深めてもらう試みが、すでに附属学校園でなされていた。

しかし、附属学校園内で、その実施形態や内容の共通理解ははかられていない状況であった。そこで、本研究では、附属学校園で行われる学校保健・学校安全に関する指導の実態を調査し、校種に関わらず、学校保健・学校安全として学ぶべきコアをなる項目について検討を行い、その項目を効果的に教授するための教育プログラムの作成並びにその効果の検証を行った。

2 本プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、1 附属学校園における教育実習内で行われる学校保健・学校安全に関する教育プログラムの実態を明らかにする。2 附属学校園と連携し、教育実習における一般教員養成での学校保

健・学校安全に対する意識の向上を目指すための教育プログラムの構築とその効果の検証である。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3 本プロジェクトの実施

1. 附属学校園の教育実習における学校保健・学校安全教育の実態調査

附属学校園の教育実習を受けるにあたり、各校の養護教諭が実習生に対して、学校保健・学校安全教育の一つである「学校保健講話」を実習中に実施している。その内容の実態調査及び学校保健講話で使用している各校の資料を分析した。調査時期は2021年8月から10月で、調査内容は学校保健講話の実施時期、実施者、指導時間と人数、指導形式、使用した資料等である。保健講話で使用している資料は、学校保健の構造並びに養護教諭の職務に沿った項目を用いて分析した。その結果、実施時期はオリエンテーション並びに実習の初日に行うことが多く、30分～1時間の時間で実習生全体に対して実施することが多かった。また新型コロナウイルス感染症の影響で、全体の4分の1ほどがオンデマンドで実施されていた。また、講話の内容は、校種等により違いはあるが、学校保健の目的、制度全体、保健管理のうちの健康観察、救急処置等、実習中にも関係の深い項目をより多く実施していたことが明らかとなった。また新型コロナウイルス感染症が猛威を振っている時期だったため、新型コロナウイルス感染症の説明や消毒方法などの校内における対応など、新型コロナウイルス関連の内容が新たに加えられている学校もあった。

2. 「学校保健講話」の教育プログラム作成と教育プログラム(学校保健講話)の実施

1. で調査した学校保健講話の実態調査をもとに、校種に関わらず、教育実習生に必要な学校保健・学校安全に関する知識等について、プロジェクトメンバーで精査し、学校保健・学校安全について学ぶことができる教育プログラムとしてまとめた「学校保健講話」の教材を作成した。

教育プログラムは、学校保健を中心に「学校保健の目的」、「学校保健の構造」、学校保健の構造に沿って「保健教育」、「保健管理」、「組織活動」について、また教員として子供に対応する際に非常にかかわりの深い「救急処置」「健康相談」「健康診断」「健康観察」「感染予防」「コロナウイルス対策」「学校環境衛生」、そして「学校安全」の領域と推進計画についての内容を扱った。教材は、PowerPointの資料として作成し、各スライドに「ノート」として、解説文を挿入し、スライド資料とした。また、スライド資料に、解説文を音声として入れ、視聴教材も作成し、実施のしやすい形態を選択できるようにした。

附属学校園での教育実習を予定している学生を対象に、作成した教材を使用して教育プログラムである「学校保健講話」を実施した。実施に際しては、作成した資料を用いて養護教諭が解説したり、音声入りの資料を再生したりと、各校の実態に合わせて実施した。

3. 教育実習生の学校保健・学校安全に対する意識及び保健講話内容についてのWeb調査実施

学校保健講話を実施後にWeb調査を実施した。Web調査の実施時期は2022年9月から10月で、回答者1063名中、データの欠損がなく、データ使用の許可の得られた1003名を調査対象者とした。調査内容は、回答者の基本属性に加え、学校保健講話の各項目についての事前の理解度、学校保健講話の内容が理解できたかどうか、学校保健講話の内容の必要性、また学校保健講話を受講して、実習中に取組みたいと思ったことと、その理由、子供の心身の健康にかかわることで、知りたい情報、学校保健講話を受講した感想や意見、である。

データは、実習校、所属している学部、実習実施時期などの基本属性と、学校保健講話の各項目についての事前の理解度、学校保健講話の内容が理解できたかどうか、学校保健講話の内容の必要性、に

については、度数を算出した。また、学校保健講話を受講して、実習中に取組みたいと思ったことと、その理由、子供の心身の健康にかかわることで、知りたい情報、学校保健講話を受講した感想や意見については、それぞれ自由記述で得られたデータを文字データとして、KH コーダーを用いてテキストマイニングを行った。

その結果、実習校、所属している学部、実習実施時期などの基本属性は表1～3の通りである。

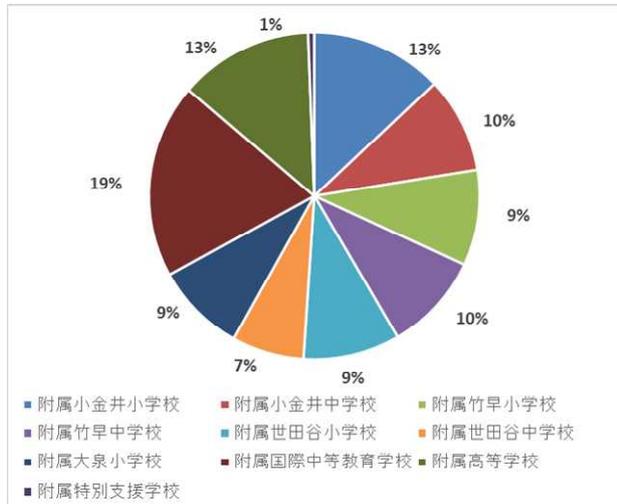


図1 実習校

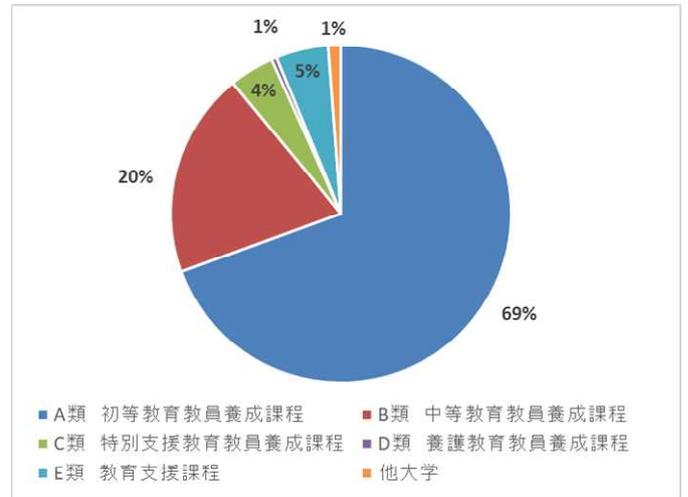


図2 所属学部

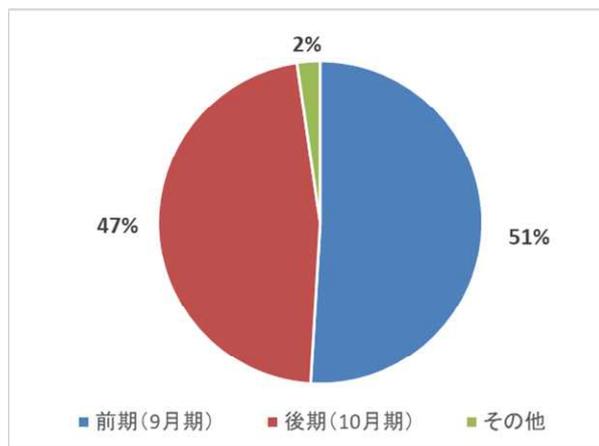


図3 実習時期

学校保健講話の各項目についての事前の理解度として、1.理解していなかった(初めて知った) 2.あまり理解していなかった(言葉は知っていた) と回答したものが6割を超える項目は、「学校環境衛生」、「健康相談」、「保健管理」、「組織活動」、「学校保健の目的」であった。3.理解していた(言葉や内容を耳にしたことがある) 4.よく理解していた(言葉や内容を説明することができる) と回答したものが6割を超えるものは、「救急処置」、「感染症の予防」

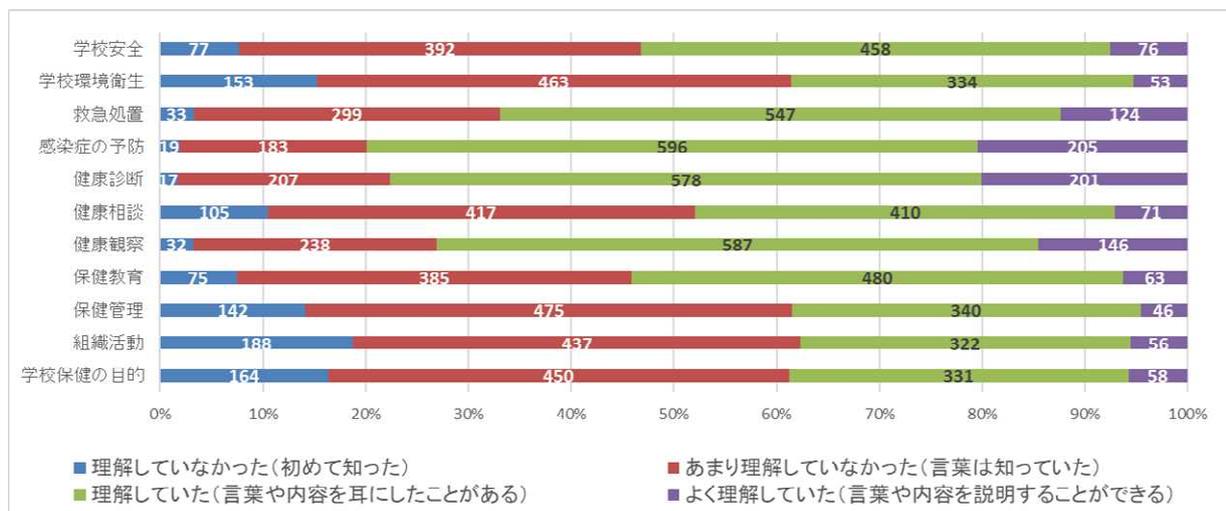


図4 学校保健講話の各項目についての事前の理解度

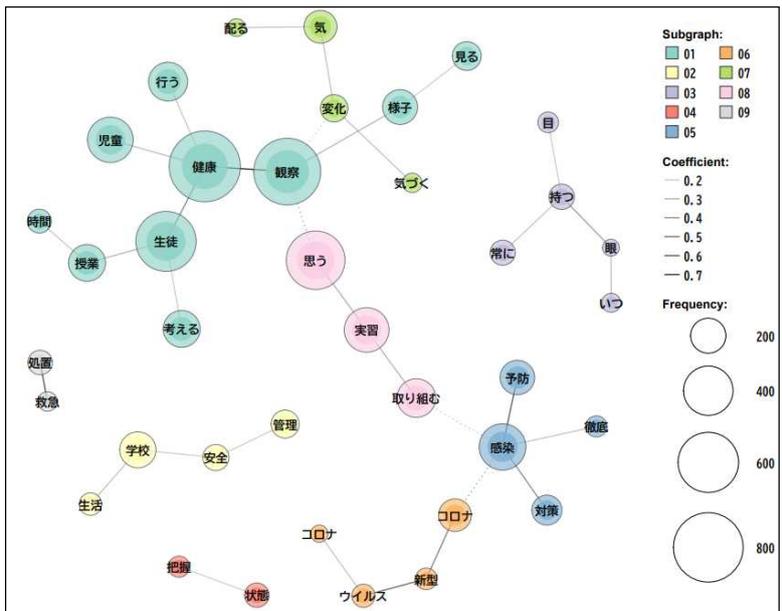


図5 実習中に取組みたいと思ったことと、その理由

「健康診断」、「健康観察」といった、子供のころに経験した内容や、コロナ禍が影響していると思われる項目が高かった。また、学校保健講話の内容が理解できたかどうか、学校保健講話の内容の必要性については、わりと理解できた、よく理解できたや、必要、とても必要と回答したものがいずれも98%を超える結果となり、必要性を十分に理解し、講話内容の理解に努めた様子がうかがえた。

実習中に取組みたいと思ったことと、その理由、については、図5のとおりである。「児童・生徒・健康・観察」、「感染・予防・対策」、「学校・安全・生活・管理」、「救急・処置」、「気・配る・変化・気づく」、「常に・目・眼・持つ」といった語が、一つのグループとして表出された。

また 子供の心身の健康にかかわることで、知りたい情報としては、「性教育・学校・多用・性・教育」、「児童・生徒・対応・コロナ・ウイルス・感染」、「保健・登校・担任・連携・教員」、「発達・障害・身体・心・メンタル・ケア・健康・心身・子供」といった語が1つのグループとして表出された。学校保健講話を受講した感想や意見については、「学校・保健」という語が、「教育・実習・理解・学ぶ」といった語と一緒に表出され、また「児童・生徒・安全・健康・守る・教員」といった語が同じグループとして表出された。その他、「全体・取り組む」、「コロナ・感染」、「救急・処置・対応」などといった小さなグループがいくつか表出された。

これらのことから、学校保健・学校安全に係る内容は、もともと自分自身が児童生徒の時に経験した内容については、ある程度理解があったが、それ以外の項目については、理解度が低く、教員になる前に学ぶ必要性が明らかとなった。また、学校保健講話を受講して大部分の学生がその必要性を感じ、内容について理解に努めた様子がうかがえた。また、学校保健講話を受講して、実習中には子供をよく観察したり、感染対策、安全管理、救急処置などに取り組みたいと感じたことが明らかとなった。さらに学校保健講話を受講することで、性教育や子どもの多様性、メンタルケアや発達障害、連携などに興味を持つことが分かり、学校保健や学校安全についての知識の向上への意欲の高まりがみられた。

4 成果と課題（又は成果，提言，提案等）

本プロジェクトにより、附属学校園での教育実習における学校保健・学校安全に関する教育プログラムの実態を把握し、統一した教育プログラムを作成することができた。そして、統一した教育プログラムを使用し、学校保健講話を実施した結果、9割以上の学生がその内容を理解し、必要性も実感することができた。また、この教育プログラムを実施することで、実習中に学校保健・学校安全に関する取り組みへの意欲、知識の向上への意欲の高まりがみられた。今後は、附属学校園だけでなく、公立学校における教育実習にもこの教育プログラムが効果的か、検証を行う必要がある。